

# イノウエ氏、故郷で追悼式 真珠湾戦没者ら眠る墓地

【ホノルル共同】17日に88歳で死去したタニエール・イノウエ米上院議員の追悼式が23日、生まれ故郷のハワイ・ホノルルの国立太平洋記念墓地で行われた。同墓地には旧日本軍の真珠湾攻撃による戦没者や、第2次大戦でイノウエ氏も所属した米陸軍の日系人部隊の戦友らが埋葬されている。式典にはオバマ大統領の夫人のほかハワイ州のアクロニャビ知事、同僚

の上院議員や、日系人部隊「第442連隊」の元隊員ら計千人以上が参加。日本からは野田佳彦首相の特使として福田康夫元首相が出席した。強い日差しが照り付け、星条旗に包まれた中、星条旗に包まれたひつぎが運び込まれると、参列者は右手を胸に当てて出迎えた。米国歌とハワイに伝わる祈りの歌が響き、参列者はイノウエ氏の死を悼んだ。

イノウエ氏は高校生

## 大震災支援へのお返しを 邦人がサンディ復旧手助け

【ニューヨーク共同】「東日本大震災後の米国民からの支援にお返ししたい」。ハリケーン「サンディ」が米東部に深刻な被害をもたらした直後の11月初めから、ニューヨーク地域に住む日本人が、サンディ被災地で住宅のがれき除去のボランティアに取り組んでいる。

海水を含んだ壁材、断熱材などを工具で☆(刈)のメが緑の旧字体のツクリがし、次々と外に運び出す。くぎが刺さったままの木材や空中に舞う粉じんから身を守るため、ヘルメットやマスク、防護服を着用。記者も参加したが、マスクをしての呼吸は息苦しく、ゴーグルをしていても目がかゆくなり、数十分で休憩が必要になるほどだ。

「日本人なのに東日本大震災後に何もできな

「ニューヨーク共同」控えた23日の日曜日。地元の非政府組織(NGO)「ニューヨーク・ケアーズ」の活動に参加する形で、多くの家屋が浸水したニューヨーク市クイーンズ区ロッカウェイの一軒家の地下室清掃に、約10人が取り組んだ。

海水を含んだ壁材、断熱材などを工具で☆(刈)のメが緑の旧字体のツクリがし、次々と外に運び出す。くぎが刺さったままの木材や空中に舞う粉じんから身を守るため、ヘルメットやマスク、防護服を着用。記者も参加したが、マスクをしての呼吸は息苦しく、ゴーグルをしていても目がかゆくなり、数十分で休憩が必要になるほどだ。

「日本人なのに東日本大震災後に何もできな



23日、ニューヨーク市クイーンズ区で、ハリケーンの被害に遭った民家の清掃をするため準備をする日本人ボランティアら

お世話になった。今日はイノウエ氏がハワイの人々に尊敬されていたことを、あらためて感じた」と話した。

## 日本と周辺国 「矛盾激化」

【北京共同】中国国務院シンクタンク、中国社会科学院は24日、「世界政治と安全保障」と題した白書を発表。自民党の安倍晋三総裁を「日本の著名なタカ派政治家」と紹介し、首相に就任すれば「日本と周辺国との矛盾が激化する可能性がある」と強調した。

## 共同通信

「中国からの反応がない」。ある安保理メンバーの外交官が、常任理事国の米中による交渉状況をこう表現した。

安保理決議違反のミサイル発射に対し、資産凍結の拡大など制裁を強めるべきだという日米韓の主張を中国は拒否。しかし修正案や対案は示していない。別の外交官も「中国が長期化させている」と明かした。

一方、北朝鮮の挑発行為を何とか食い止めた米韓が、日韓と連携してこれまでの「相場」以上に強い対応を目指し、長期戦も辞さない構えがある。

「中国からの反応がない」。ある安保理メンバーの外交官が、常任理事国の米中による交渉状況をこう表現した。

安保理決議違反のミサイル発射に対し、資産凍結の拡大など制裁を強めるべきだという日米韓の主張を中国は拒否。しかし修正案や対案は示していない。別の外交官も「中国が長期化させている」と明かした。

一方、北朝鮮の挑発行為を何とか食い止めた米韓が、日韓と連携してこれまでの「相場」以上に強い対応を目指し、長期戦も辞さない構えがある。

白書は2012年の東アジア情勢を回顧し、沖縄県・尖閣諸島(中国名:釣魚島)をめぐる問題が主権と安全保障に関する最大の事件になったと指摘。背景に米国のアジア太平洋重視の戦略がある」と主張し、日米が「中国を抑え込もう」とし、アジア太平洋地域秩序を主導しようとしている」と警戒感をあらわにした。

また安倍氏や石破茂幹事長らにより、日本の軍事大国への動きが加速していると分析。日本政府が尖閣に人員を常駐させれば、日中関係はさらに緊迫するとけん制した。

一方、この1年で中国と周辺国との間で摩擦が起きたが、双方が危機の回避に向け努力してきたとし、今後「矛盾や摩擦が制御できなくなるといふことはない」との見通しを示した。

## 中国、具体論示さず 安保理制裁協議が足踏み 北朝鮮ミサイル発射で

【ニューヨーク共同】北朝鮮の長距離弾道ミサイル発射問題に対する国連安全保障理事会の協議は26日から3週目に入る。米国の目指す制裁強化に反対を表明した中国だが、具体的な論点は示さず、協議の鍵を握る2国間折衝は足踏み状態。年明けに韓国が非常任理事国として安保理に入る影響も注目される。

「中国からの反応がない」。ある安保理メンバーの外交官が、常任理事国の米中による交渉状況をこう表現した。

安保理決議違反のミサイル発射に対し、資産凍結の拡大など制裁を強めるべきだという日米韓の主張を中国は拒否。しかし修正案や対案は示していない。別の外交官も「中国が長期化させている」と明かした。

一方、北朝鮮の挑発行為を何とか食い止めた米韓が、日韓と連携してこれまでの「相場」以上に強い対応を目指し、長期戦も辞さない構えがある。

取っているとの見方も出てきた。日本政府筋も「長期化は米韓が『降りない』(妥協しない)姿勢であることも示す」と分析する。

北朝鮮と並んで核開発が問題視されるイランに対し安保理は2010年6月、4回目の制裁決議を採択した。この際の折衝は数カ月。国連外交筋は「米韓は本気だったから、十分な時間をかけた」と説明している。

安保理は年明けに非常任理事国(任期2年)10カ国の半数が交代し、韓国がメンバー入りする。韓国が10月に選出された際、金墾国連大使は「北朝鮮の核や朝鮮半島の安全、安定の問題は世界全体の大変重要な問題だ」と強調した。

メンバー交代をスムーズにするため、韓国は既に安保理の議論に一部加わっており、これまで以上にミサイル再発射や3度目の核実験を防ぐ実効策を打ち出すべき立場にある。

# 第4回ポエム・タウン Poem Town

## ポエム・俳句・川柳を大募集!

締め切り: 1月7日(月)

◆**ポエム**: 原稿用紙2枚まで(20字詰め40行)一人2編まで、日本語で書かれた未発表のポエム。一般の部は、原稿に名前を明記。青少年の部(18歳以下)は学校名、学年、名前を明記。学校単位のご応募も受け付けます。

◆**俳句区**: 応募作品には必ず季語を入れ、五・七・五の17文字でまとめてください。季語は、季節に合ったものなら何でもけっこうです。未発表のもので、一人5句まで。

◆**NEW! 川柳区**: 今回、新設した「川柳区」のテーマは「アメリカ生活」。必ずテーマに合った句で、未発表のもので一人5句まで。

**各賞**: 毎年1回、年間賞を発表。各部門より1名に最優秀賞、佳作数名。各賞に記念品贈呈。ポエム、俳句、川柳の優秀作品は日刊サンに掲載。俳句の優秀作品はTJSラジオでも発表!

**NEW! 俳句区ゲスト選者・半田俊夫さん**

東京出身。日本語に思いあり。現在バサデナセミナー会、L A東京会、裏千家淡交会OC協会、命の電話友の会などの会長を務めている。2009-11年の南加日商會頭。

「ポエム・タウン」は、「日系社会における美しい日本語の推進」と「ポエムと俳句という日本語での表現により、純粹で素直な感性を育む」ことを目的にしております。流派や経験に全くとらわれず、どなたでもポエムと俳句を発表できる「タウン(街)」作りを目指しております。

応募先: Nikkan San 16901 Western Ave. Suite102, Gardena, CA 90247  
 メールアドレス: jushin@nikkansan.com (応募は郵送、メールどちらでも可能です。)  
 お名前、連絡先をご記入ください。郵送の場合、封書の表に朱書きで『詩/俳句/川柳の投稿』と必ず書いてください。締め切りは1月7日(月)。当日の消印有効。  
 お問い合わせ: 日刊サン 310-516-0343 jushin@nikkansan.com (金丸まで)

主催: 日刊サン 後援: 在ロサンゼルス日本国総領事館/べんてるUSA 協力: TJSラジオ(FM106.3)

在ロサンゼルス日本国総領事館 Spirit of Wonder Pentel TJS Japanese Radio Station 日刊サン The Japanese Daily Sun

\*原稿は返却しません。ご応募の後の変更とお問い合わせはご遠慮ください。

# New York News

12月25・26日号

社会

## 大震災支援へのお返しを

### 邦人がサンディ復旧手助け

【ニューヨーク共同】「東日本大震災後の米国からの支援にお返ししたい」。ハリケーン「サンディ」が米東部に深刻な被害をもたらした直後の11月初めから、ニューヨーク地域に住む日本人が、サンディ被災地で住宅のがれき除去のボランティアに取り組んでいる。



23日、ニューヨーク市クイーンズ区で、ハリケーンの被害に遭った民家の清掃をするため準備をする日本人ボランティアら(共同)

大震災後の米軍による「トモダチ作戦」への返礼の意味を込め、「トモダチ作戦・イン・ニューヨーク」と命名。ニューヨーク日系ライオンズクラブのメンバーが中心になり、ニューヨーク市立大ラガーディア・コミュニティーカレッジ(LAGCC)の教師や学生らも参加、これまで計15回以上実施した。

クリスマスを目前に控えた23日の日曜日。地元の非政府組織(NGO)「ニューヨーク・ケアーズ」の活動に参加する形で、多くの家屋が浸水したニューヨーク市クイーンズ区ロッカウェイの一軒家の地下室清掃に、約10人が取り組んだ。

海水を含んだ壁材、断熱材などを工具で剥がし、次々と外に運び出す。くぎが刺さったままの木材や空中に舞う粉じんから身を守るため、ヘルメットやマスク、防護服を着用。記者も参加し

たが、マスクをしての呼吸は息苦しく、ゴーグルをしていても目がかゆくなり、数十分で休憩が必要になるほどだ。

「日本人なのに東日本大震災後に何もできなかった」と悔やんでいたというLAGCC2年生の荒町まどかさん(26)は、この日の作業後「疲れたけど、地下室がきれいになり達成感がある」と充実した表情だった。

ニューヨーク・ケアーズは12月1日以降、ロッカウェイなどで民家177軒の清掃を実施、さらに200軒から要請を受けている。復興までの道のりはまだまだ長い。

ライオンズクラブの三木伸夫さん(51)は「ニューヨーク市民からは東日本大震災で大きな支援をもらった。今度は私たちがサンディ被災者を助ける番だ」と話し、可能な限り支援活動を続けていく考えだ。